

## 2年目に向けて提案したいこと

前回記録に「楽しく続けていくのに、最近のzunda-cafeのようにLTベースの話題持ち寄りでもいいのかもしれない。ご意見募集！」とあったので、ご提案

zunda-caféが出来て約1年で、社内ではできないことをたくさん習得できました。

新しい仲間も順調に増えてきたなかで

2年目を楽しく活発にするためには、どうしたらよいかを考えました。

まず、結論

- ⇒ 現状や取り組みを分かりやすくするために、ナレッジの可視化をしませんか？
- ⇒ 全体で1つのものを作るよりも、分科ゼミを充実させる方向にしませんか？

**現状について**

## 1年を振り返って、思ったこと (1/2)

- 全体で1つに注力し、成果物を積み上げることが難しくなってきた
  - ⇒ モチベーションや好きな領域が違う
  - ⇒ コーディングが好きな人、インフラ/ツールが好きな人、方法論が好きな人
  - ⇒ **誰かが頑張っても次が続かない**
  - ⇒ 同じことを高くしていくと、新しい人に敷居が高いかも
  - ⇒ IFTTTは土台と+aにしてみたが、進んでいる感はない
- 興味ややりたいことが頻繁に変わる
  - ⇒ 悪いことではなく、新しいことに興味を持ちたくなる
  - ⇒ 流行は常に変わる。1つに専念より幅の広さ多様性が必要かも
  - ⇒ 全体でやろうと決めたIFTTTよりも、LTや単発ネタの方が多い
- 方針の「モダンな開発フローを身につける」は方法論的目標あるいは技術的目標
  - ⇒ 作る過程のこと
    - ⇒ 技術の習得が目的なので、それはOKだと思う
  - ⇒ 作る“もの”はない。
    - ⇒ Zunda-CTF,Zunda-Blogという成果物のほうに執着はない
  - ⇒ **3ヶ月に1度ネタを議論をして、提案した人が土台を作って終わる**
    - ⇒ **いつも使うツールややり方は決まるが、作りたい成果物は迷走する**

## 1年を振り返って、思ったこと (2/2)

- zunda-caféが月1のラジオになっている。
  - ⇒ 満足感/達成感/期待感がない？
    - ⇒ **おそらくこのまま行くと、モチベDOWN/参加者DOWN/活動DOWN**
    - ⇒ 実際に体得したスキルは一杯あるはず(Git, Spring, Slack, Heroku, node.js…)
    - ⇒ zunda-caféでやってきたことを体系化/可視化して共有したい
- 1人では出来ないことをしたいと思って、zunda-caféが集まったはず
  - ⇒ **冷静に考えると、こういう場所はとても貴重**
  - ⇒ ただ集まるだけでも良いが、誰かと協創してこそコミュニティ活動
  - ⇒ (自分が)声をかけても参加者がいない。声をかけにくい。
    - ⇒ だれがどんな知識・技術・興味をもっているのかワカラナイ
  - ⇒ (誰かに)声をかけられても、参加しにくい
    - ⇒ 声をかけてもらったのに申し訳ない。でも、たまには参加
      - ⇒ reactiveや勉強会は参加しやすかった。android/TDDは難易度高そう
      - ⇒ 専門外だとなかなか勇気がいる
  - ⇒ zunda-caféでやってきたことを体系化/可視化して共有したい

## ちょっと作ってみた

「zunda-caféでやってきたことを体系化/可視化して共有したい」 と思ったので

とりあえず、zunda-caféの1年間の取り組みをまとめてみた。

⇒ **zunda-caféナレッジマップ**

最近、マンネリ化しているけど、客観的に可視化すると結構頑張った！？

⇒これをみてしっかり活動できていると思う&これを大きくしてみたいと思った。

⇒ここの過去の実績に共感してもらえないとツライ orz

**そもそもの活動動機**

## 「モダンな開発フローを身につける」の始まりと範囲

- 当初は、以下のようなツールを連携させソーシャルコーディングがしたい。
  - Git/GitHub(構成管理)
  - Spring(フレームワーク)
  - IntelliJ(開発環境)
  - Jenkins(CI/CD)
  - Heroku(PaaS)
  - Slack(チャット)
  - TeamViewer/Skype(オンラインミーティング)
  - ⇒ Zunda-CTF、Zunda-blogで、ひとまず達成された
  - ⇒ 手持ち無沙汰になった？
- “モダン”なので、常に新しいことに追従し、ここでおしまいということはない
  - ⇒常に同じ技術でも新しいものに追従する必要がある
- “開発フロー”は多種多様で、あらゆるものは繋がっている
  - ⇒ナレッジマップで示したとおり
  - ⇒逆説的に言うと、活動の中に「モダンな開発」と無関係だったものはない
    - ⇒全ては、モダンな開発フローを学ぶことに繋がっていた

## 「モダンな開発フローを身につける」の本質とは？

- 最初の動機「モダンな開発フローを習得する」の根源を思い出す
  - ⇒ CWの開発が世界的にあまりに遅れているので、モダンな開発フローを学びたい
  - ⇒ **時間的にも環境的にも社外に出て、自己啓発を共有してスキルを伸ばそう**
  - ⇒ モダンとか、開発とか、フローとか単語に囚われ気味だけど、  
**自分たちで今時の開発に必要な知識や技術を勉強しようということでは？**
  - ⇒ **だれかが教えてくれる情報を受動的に聞くだけというのは本質ではない**
    - ⇒ これ自体は無駄ではないし、まずはここからというのは全然OK
- もう一つのキーワード、みんなで1つのものを作る
  - ⇒ モダンな開発フローは1人ではできないので、みんなでやろう
  - ⇒ せっかくなので、みんなで1つのものを作った方が意識や達成感が得られる
    - ⇒ 小人数で目的が近いため、最初はそれで成功した。zunda-CTF,zunda-blog
  - ⇒ 技術力が付いて出来ることが増えたり、新しいメンバが加わると“全員”は難しい
    - ⇒ 事前に割り振りを決めても、その通りに行かない
      - ⇒ それ自体は当たり前
    - ⇒ **“みんな”は、zunda-caféの全員というよりも、同じ興味を持つ仲間が現実的**



## 具体的な提案内容

## 「現状」と「そもそもの活動動機」をまとめると

- ・全体では同じ方向性をもつ。

⇒ ただし、**個々のモチベーションやスキルや興味が違う**

- ・仕事ではないので、自分が興味があって、やりたいと思うものでないと、続かない

⇒ **全員が数か月の間興味を維持する題材を、数か月に1度見つけ続けるのは難しい**

- ・全体で1つのものを割り振って作業をしたり、受動的に人の話を聞くよりも、少数でも主体的に自分から技術を学ぶような取り組みとなるべき

⇒ 知らない領域の見聞が広まるという意味では、価値はある

⇒ 人に説明することで自分の理解を深められたり、モチベーションするのもOK

⇒ でも、**1人でネットで調べて得られる程度の知識しか得られないと価値は少ない**

これは大学の研究室と同じ状況

⇒ **分科ゼミの方が楽しくて活発になるのでは？**

⇒ ゼミとは、少数のメンバが特定のテーマについて、双方向で交流・啓発しあい、専門性の高い知識を習得する取り組み

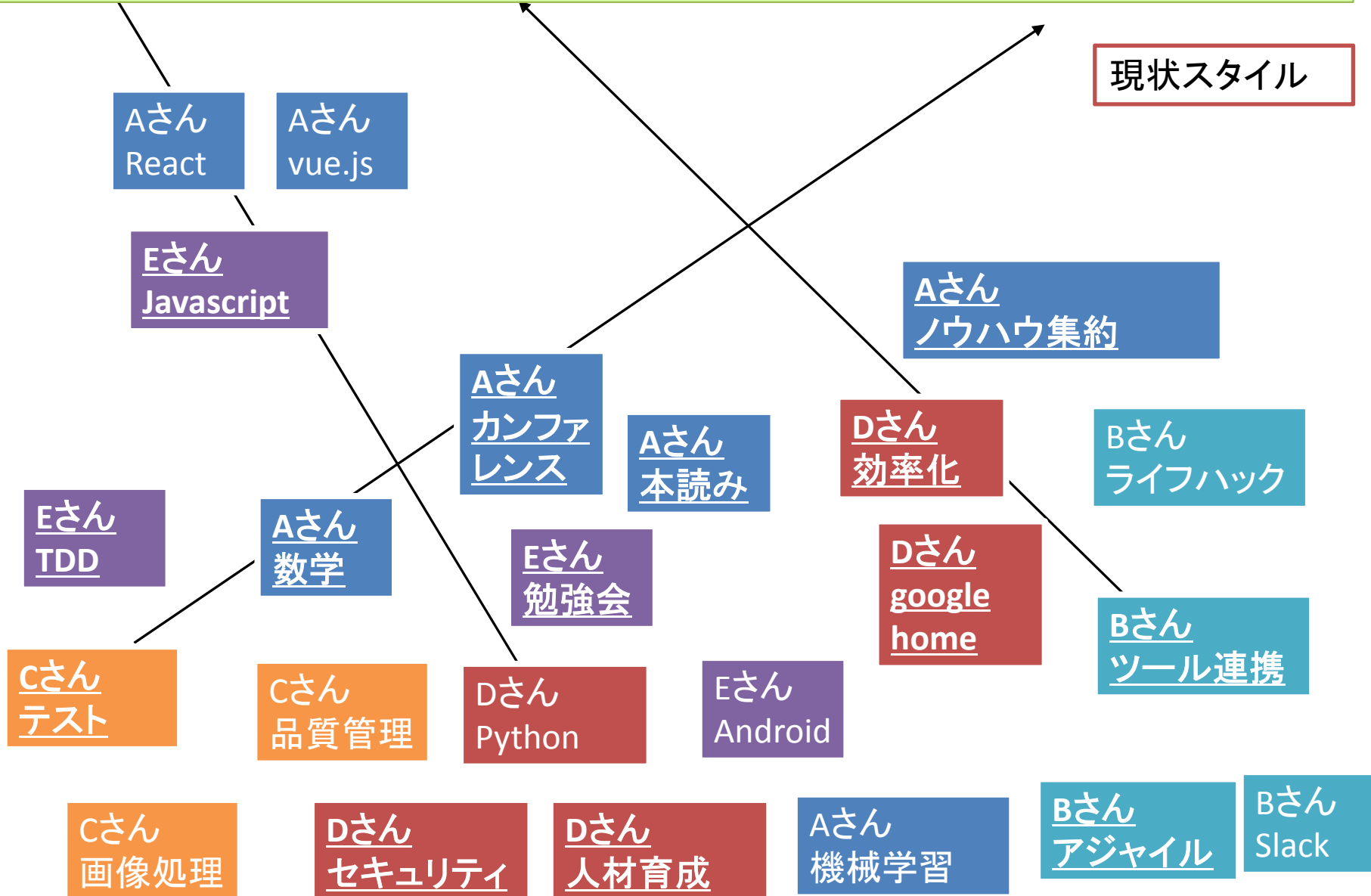
## 分科ゼミの具体的な提案 (1/2)

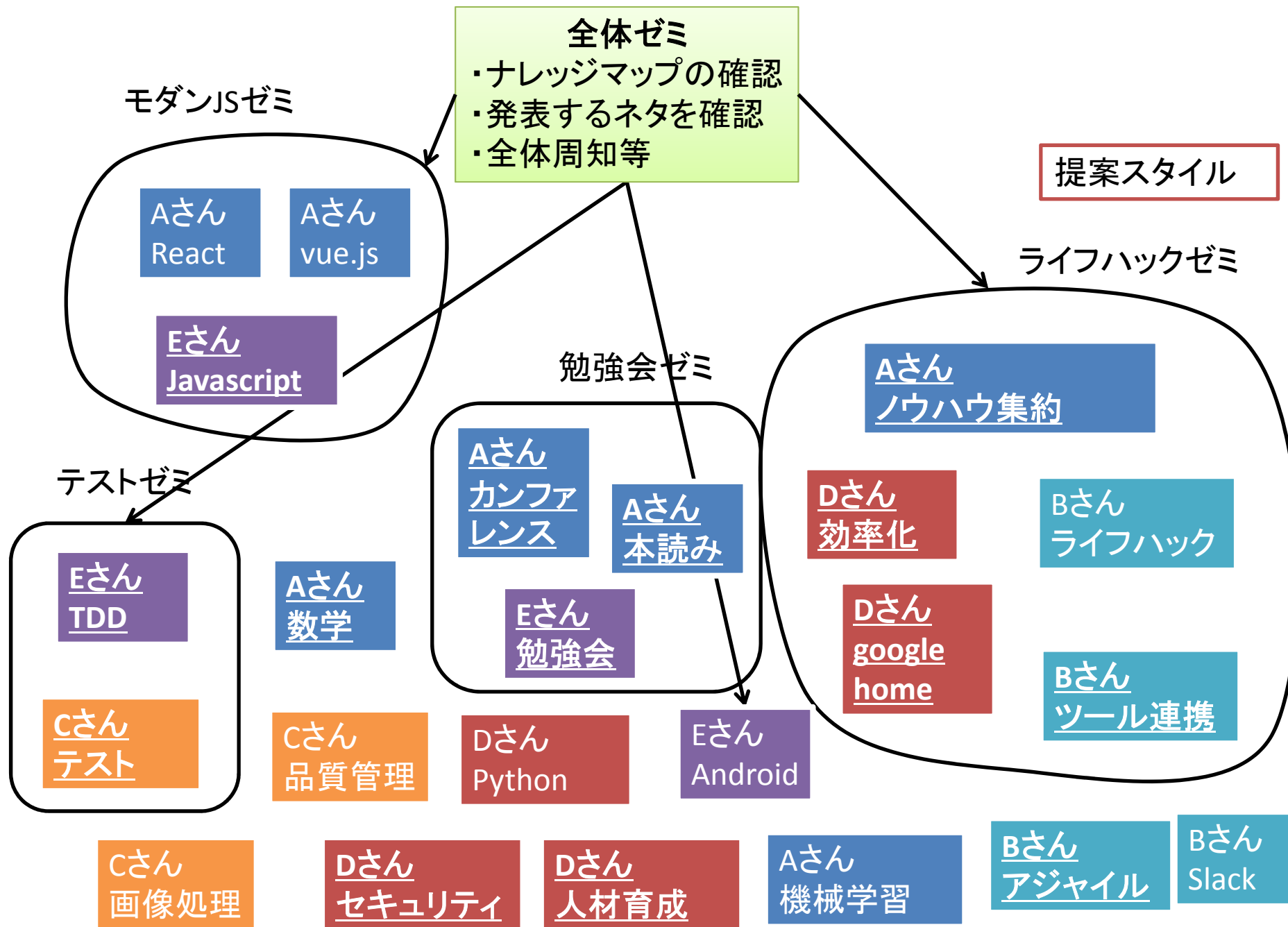
- ・無理をして、1つの成果物を全員で作るということをしない。
- ・それぞれが、1人や複数人で自分の好きなことを調べて発表する
  - ⇒従来のLT とか
  - ⇒今野-掛内のReactive/笠原-今野のKubernetes
  - ⇒ただし、Zunda-caféのナレッジのどこに位置付くかだけは見失わないこと
- ・全体がばらばらにならないように、全体ゼミ(Zundaゼミ)を作る
  - ⇒ナレッジマップの管理
  - ⇒業務連絡/全体調整
  - ⇒定例で発表するネタを調整するなど
- ・全体で1つの“もの”をつくることにはならないが、全体でZunda-caféの1つのナレッジを作ること是可以

## 全体で決めたネタ

DさんがPythonでベースを作り、Bさんがツールの連携を行い、Cさんがテストをする

現状スタイル





## 分科ゼミスタイルの提案 2/2

### 【定例のZunda-caféの流れ (案)】

- ①全体ゼミ(zundaゼミ)  
⇒ 発表内容を決める/業務連絡(メンバ追加とか)/全体連絡(slack運用とか)
- ②分科ゼミの発表/単発ネタの発表  
⇒ 成果発表、実演、一緒に作業、LT、などなど
- ③全体ゼミ(zundaゼミ)  
⇒ ナレッジマップの更新/次回の開催予告

### 【細かいこと】

- ・ノウハウがひと目で見れるものをみんなで共有する(xmindでなくても良い)  
⇒ 興味があること/やったことがあることを書き出す。  
⇒ それぞれから枝を伸ばし、やりたいことためしたいことを伸ばす  
⇒ だれかがやったことでもいい
- ・興味が重なれば、グループでもいいし、一匹オオカミでもいい  
⇒ 分科ゼミのペースは、全体に合わせる必要はない。毎日/ 隔月 / 不定期など
- ・複数に所属してもいいし、1周で終わってもいいし、単発でもよい  
⇒ LTと1人のゼミはあまり境がない  
⇒ シリーズ化したり、体系的な管理ができるようになったら、ゼミかなあ
- ・大切なことは、取り組みが「ナレッジマップのどこにいるか？」と  
「ナレッジマップを大きくできるか？」を示すこと

## 何がうれしい？

### ■うれしいこと

- ・「モダンな開発フロー」を前提とした題材探しに時間を費やさなくてよい
  - ⇒ 各々が分科ゼミで好きなことをやる
  - ⇒ zunda-caféとしても幅の広がりを加速できる
- ・範囲が広くなるので、開発フローや開発技術に縛られなくても良い
  - ⇒ 勉強方法とか、ナレッジ管理とか、チームビルディングなどなど
  - ⇒ ナレッジマップにさえ紐付けばひとまずOKとする
- ・ **自分がやりたいことに集中できる**
  - ⇒ たぶんそのほうが活性化する
  - ⇒ 分科ゼミ毎に管理をお任せ
- ・ **ナレッジマップで常に自分たちのノウハウの全体像を見失わない。**
  - ⇒ Zunda-café全体のノウハウが常に最新
  - ⇒ 誰がどんなノウハウを持っているのかわかるので、連携や質問がしやすい
  - ⇒ 過去に何をやったのか、わかりやすい
- ・ **新しい/一時的なことがしやすい**
  - ⇒ 分科ゼミを使い捨てにしてもいい
  - ⇒ 新しい分科ゼミでは、みんな0からスタート

## 何がかなしい？

### ■ かなしいこと

- ・ 開発フローを学ぶという行為が薄まり、幅が広くなる  
⇒ 境が曖昧な、開発フローだけにしがみつくよりよいのでは？
- ・ 全体で1つの“もの”を作ることはいらない  
⇒ “もの”を作りたいになったら、そういうゼミを作ればよい  
⇒ 全員で1つのナレッジは作れる
- ・ しばらくはLT大会になるかも  
⇒ それも一つの形。 ⇒ 興味があれば引き継いだりコラボが起きるはず  
⇒ LTから1人のゼミになり、複数人のゼミに成長すると嬉しい
- ・ 何しない人/ROM専がでるかも  
⇒ 自分で動かないと何もはじまらない  
⇒ 仕事ではないので、モチベーションに活動内容が比例するのは自然なこと  
⇒ 新規参入者へは勧誘者や全体ゼミでサポート  
⇒ ROM専を許容することで、参加の敷居が下がる  
⇒ メンバを誘いやすく脱落しにくくなる？  
⇒ **聞くだけでもいいから、全体ゼミの参加人数は多くしたい！！**



**提案の終着地点**

## 2年目の活動提案の終着地点

### 【提案動機】

- ・ みんなで1つのを作るのが現実的でなくなった。
- ・ 参加や発表が自由でないとコミュニティ活動にならないが、主体的な活動が無くてもコミュニティ活動にならないので、このバランスを取れる形態にしたい。  
⇒主体性がなくなり、惰性になると、活動がなくなり、個人の勉強でよくなる

### 【提案内容】

- ・ ナレッジマップで、zunda-caféにあるナレッジ、取り組み、歴史を可視化する
- ・ 無理に全体で1つの題材を選ばず、全体ゼミ/分科ゼミで活動をする

### 【必要な共通認識】

- ①zunda-caféのナレッジマップを主体的に大きくする。
- ②モダンな開発フロー からシステム開発のナレッジに活動範囲を拡大する。
- ③全員で1つのナレッジを作り、興味がある仲間(≠Zundaの全員)で同じものを作る。
- ④最終的に成果物にならなくても、断片的、一時的、過程状態のノウハウも歓迎する。

### 【採用された場合】

- ・ 自由度を上げて全体活動の拘束を無くすので、かわり、自分がやりたいことを主体的に行い、ナレッジ拡大という形でコミュニティに貢献してもらえるとうれしい